

第16組西福寺住職 棚橋昭憲

自坊の本堂に掲示されている標語に「大切なのはどれだけ生きたかではなくてどう生きたか」という飯島夏樹さんの言葉があります。先日、お寺にお参りになった方がこの言葉に大変感動され、ずいぶん長い時間お話をしました。

飯島夏樹さんは、世界的に有名なプロのウィンドサーファーで、ワールドカップにも8年連続出場した人です。2002年に体に癌が見つかり、2004年に余命宣告をされ、2005年2月に38才の若さで亡くなりました。その間、その病に出逢って「自分が生かされている」ことを「今日も生かされます」というエッセイでホームページに連載されていました。

また、本の執筆にも熱心に取り組み「がんが生かされて」等がベストセラーになり、その題材を元に昨年は「天国で君に逢えたら」という映画が上映されています。

人の命の長さは生まれた時すでに定められています。それが定命です。生まれてすぐ命を亡くす子もその子の定命です。100才になっても矍鑠としている人もその人の定命です。

自分の定命さえわからないのが我々人間です。そんな中で命の限りを宣告された余命幾許もない飯島さんが「今日も生かされています」、「どう生きたのか」と発信し続けたのは、今日も今一瞬も生かされているという命の尊さを訴えられたのではないのでしょうか。

三帰依文に「人身受け難し、今すでに受く」とあります。何人もの命を受け継いで私たちは、今、人として生かされています。受け難い命をいただいて生かされています。尊い命です。今この一瞬、今この時を懸命に生きたいと願います。